

MDHelp操作マニュアル K4

改訂履歴

K1	2022/12/06	新規作成。
K2	2023/04/26	PageViewを主画面に統合した版に合わせて修正。
K3	2024/05/03	PageViewを主画面に統合した版に合わせて修正。
K4	2024/09/07	タイトルメニューと言語選択項目を追加。

目次

第1章 はじめに	1
第1節 コマンドライン指定	1
第2節 対象とする Markdown ファイル形式	1
第2章 GUIの説明	2
第1節 主画面	2
1. タブ選択部	2
2. ヘッドライン表示部	2
3. 整形テキスト表示部	2
4. ボタン部	3
5. 整形テキスト表示部のキーボード操作	4
6. 右クリックメニュー項目	5
7. フォント選択ダイアログ	5
8. 検索文字列入力ダイアログ	6
9. プリンターの設定ダイアログ	6
10. マージン設定ダイアログ	7
11. 印刷ダイアログ	7
第3章 設定ファイル	8
第1節 設定ファイルの構成の設定 [Common]	8
1. GUI関連の設定を別ファイルから読み書きする設定	8
2. 動作設定情報を別ファイルから読み込む設定	9
3. 表示言語の設定	9
第2節 設定ファイル内の各項目の記述に関する共通ルール	10
1. 数値の指定	10
2. フォント高割合	10
3. 色の指定	10
4. 真偽値の指定	10
第3節 動作設定情報	11
1. MDHelpの動作設定 [Job]	11
2. Markdown 全体の属性設定 [Overview]	11
3. 見出し行の属性設定 [Headline_1]	12
4. 水平線の属性設定 [HorizontalLine]	12
5. 参照行の属性設定 [Blockquote]	13
6. 箇条書きの属性設定 [Itemization]	13
7. コード引用の属性設定 [CodeBlock]	13
8. 画像の属性設定 [Image]	14
9. 表の属性設定 [Table]	14
10. 目次の属性設定 [TOC]	15
11. ページ表示時の属性設定 [PrintImage]	15
12. 印刷時ヘッダーの属性設定 [PrintHeader]	16
13. 印刷時フッターの属性設定 [PrintFooter]	16
14. 表示フォントの属性設定 [TextFont]	16

15. 印刷フォントの属性設定 [PrintFont]	17
16. ヘルプ表示の属性設定 [Manual]	17
第4節 GUI関連の設定	19
1. ダイアログ表示パラメータの属性設定 [WindowParameter]	19
2. ダイアログフォントの属性設定 [WindowFont]	19
3. ユーザー選択設定 [SelectLanguage]	19
4. ダイアログ表示位置の属性設定 [ReportDialog]	19
第4章 Markdown拡張機能	21
1. 改ページ @PageBreak	21
2. 右寄せ/中央寄せ/左寄せ @Align	21
3. フォントサイズの変更 @FontRatio	21
4. 目次 @TOC	22
5. 印刷用ヘッダー @PageHeader	22
6. 印刷用フッター @PageFooter	22
7. 開始ページの指定 @PageNumber	23
8. 箇条書きの先頭マーク指定	23
やり残し	23

第1章 はじめに

本ツールはMarkdownで書かれたテキストを表示するツールです。プリンタへの印刷やPDF化も可能です。

- Markdownで書かれたテキストを表示します。タブ形式で複数のファイルを切り替えて表示できます。
- 表示だけでなく印刷も可能です。Microsoft Print to PDF に印刷指示すれば PDF化もできます。
- 画面左側にヘッドライン行をツリー表示します。ヘッドラインを選択すると表示位置を変更できます。
- 自作ツールの ReadMe テキスト表示やマニュアル作成のために開発しました。

第1節 コマンドライン指定

MDHelp.exe	... MDHelpを起動します。設定ファイルにAutoLoadの記載がある場合は、対象ファイルを自動的に読み込みます。
MDHelp.exe 対象ファイル	... MDHelpを起動し、Markdownで記述された対象ファイルを読み込みます。複数のファイルを指定可能です。
MDHelp.exe -p	... MDHelpを起動します。起動時にページ表示モードに変更します。
MDHelp.exe -p-	... MDHelpを起動します。起動時に通常表示モードに変更します。
MDHelp.exe -i インデックス	... MDHelpを起動します。読み込んだファイルの何番目を選択状態にするかを指定します。(0～n)
MDHelp.exe -l リストファイル	... MDHelpを起動します。リストファイルの各行に書かれたファイルを読み込みます。

- 前回表示位置とサイズを記憶しますが、サブディスプレイに表示していてサブディスプレイが無くなった場合などは、メインスクリーンの中央に再配置します。
- ウィンドウメニューから「Move to primary screen.」を選択した場合も、メインスクリーンの中央に再配置します。
- リストファイルは、読み込むMarkdownファイルのパスを1行に1つずつ記述したファイルです。
- コマンドラインでの -p/-p- 指定は、設定ファイルでの指定より優先します。

第2節 対象とする Markdown ファイル形式

MDHelpが解釈するMarkdownコマンドを記述したサンプルファイルが [サンプルのMarkdownファイル](#) にあります。

Markdownコマンドに加えて、PDF等の文書化の際に便利な「目次」などの拡張機能も記述できます。

第2章 GUIの説明

本章では、MDHelpのGUIについて説明します。

第1節 主画面

主画面は、①タブ選択部、②ヘッドライン表示部、③整形テキスト表示部、④ボタン部、で構成されます。



1. タブ選択部

表示対象のMarkdownファイルが複数ある場合に、それらをタブ形式でリスト表示します。マウスでタブを選択すると、表示するMarkdownファイルが切り替わります。また、タブの×ボタンをクリックするとタブを削除します。

2. ヘッドライン表示部

タブ選択部で選択されているMarkdownファイルのヘッドライン行だけを抽出して表示します。いずれかのヘッドラインを選択すると、整形テキスト表示部のカーソル位置と表示位置が、選択したヘッドラインの位置に移動します。

3. 整形テキスト表示部

タブ選択部で選択されているMarkdownファイルの内容を整形して表示します。「Page」ボタンの状態に応じて、通常表示、ページ表示、のどちらかのモードになります。

前述の図は通常表示時の画面ですが、ページ表示時は下記の画面になります。



4. ボタン部

各ボタンを押下した際の動作は下記の通りです。

Font	... フォント選択ダイアログを表示します。選択したフォントに一時的に変更します。
-	... 主画面のフォントサイズを一時的に小さくします。
Reset(記号)	... 主画面のフォントサイズを設定ファイル保存時の大きさに戻します。
+	... 主画面のフォントサイズを一時的に大きくします。
Save	... 現在の主画面のフォント属性を設定ファイルに書き込みます。
<-	... 前回検索した文字列を逆方向に検索します。
Search	... 検索文字列入力ダイアログが表示されます。文字列を入力すると、その文字列が含まれる行を順方向に検索します。
->	... 前回検索した文字列を順方向に検索します。
Resize	... (ページ表示時のみ) ページ表示時の仮定用紙サイズを印刷設定ダイアログで選択します。印刷時にも同じ用紙サイズを選択してください。
Margin	... (ページ表示時のみ) ページ表示時の上下左右のマージンを設定します。
ClipTOC	... (ページ表示時のみ) 目次文字列をクリップボードに生成します。
Print	... (ページ表示時のみ) ページ表示時の内容を印刷します。
Reload	... 現在表示しているMarkdownファイルを再読み込みします。

Reboot	... MDHelpを再起動します。設定ファイルを再適用したい場合に使用します。
Page	... 整形テキスト表示部の表示モードを切り替えます。

- フォント関連のボタンでは、通常表示では「TextFont」 ページ表示では「PrintFont」 に対して操作が行われます。
- フォント属性を変更した後、Saveボタンを押下しないでMDHelpを閉じると、変更したフォント属性を忘れます。
- 目次文字列はクリップボードに生成されるため、そのままマニュアルのファイルの希望位置にコピーしてください。

5. 整形テキスト表示部のキーボード操作

整形テキスト表示部が選択されている状態で、キーボードを操作した際の動作は下記の通りです。ヘッドライン表示部でも同様の動作になります。

Ctrl + C	... 選択した行の原文をクリップボードにコピーします。
Ctrl + F	... 検索文字列入力ダイアログが表示されます。文字列を入力すると、その文字列が含まれる行を順方向に検索します。
Ctrl + S	... 前回検索した文字列を逆方向に検索します。
Ctrl + D	... 前回検索した文字列を順方向に検索します。
Ctrl + →	... 右側のタブを選択します。
Ctrl + ←	... 左側のタブを選択します。
Ctrl + W	... 現在選択されているタブを削除します。
Shift + Wheel	... スクロール速度が2倍になります。
Ctrl + Wheel	... フォントサイズを変更します(拡大または縮小)。
RETURN	... カーソル位置にリンクがあればリンク先を新規タブで表示します。
DoubleClick	... カーソル位置にリンクがあればリンク先を新規タブで表示します。

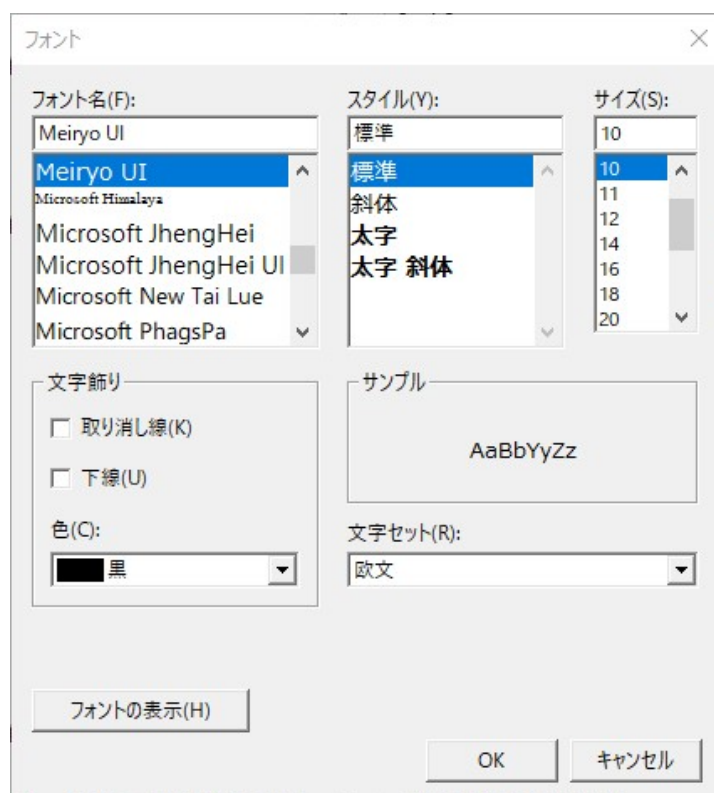
6. 右クリックメニュー項目

整形テキスト表示部が選択されている状態で、マウスを右クリックした際に表示されるメニュー項目は下記の通りです。ヘッドライン表示部でも同様の動作になります。

Copy to clipboard.	... 選択した行の原文をクリップボードにコピーします。
Search specified text.	... 検索文字列入力ダイアログが表示されます。文字列を入力するとその文字列が含まれる行を順方向に検索します。
Search previous text.	... 前回検索した文字列を逆方向に検索します。
Search next text.	... 前回検索した文字列を順方向に検索します。
Copy TOC to clipboard.	... (ページ表示時のみ) 目次文字列をクリップボードに生成します。

7. フォント選択ダイアログ

主画面で Font ボタンを押下すると、Windows標準のフォント選択ダイアログが開きます。各フォント属性を選択してOKを押下すると、主画面に使用しているフォントを一時的に変更します。



- 通常表示時とページ表示時では使われるフォント設定が異なります。通常表示時は「TextFont」ページ表示時は「PrintFont」が使われます。
- 変更したフォント属性は Save ボタンを押下すると設定ファイルに書き込まれます。SaveしないでMDHelpを閉じると元に戻ります。

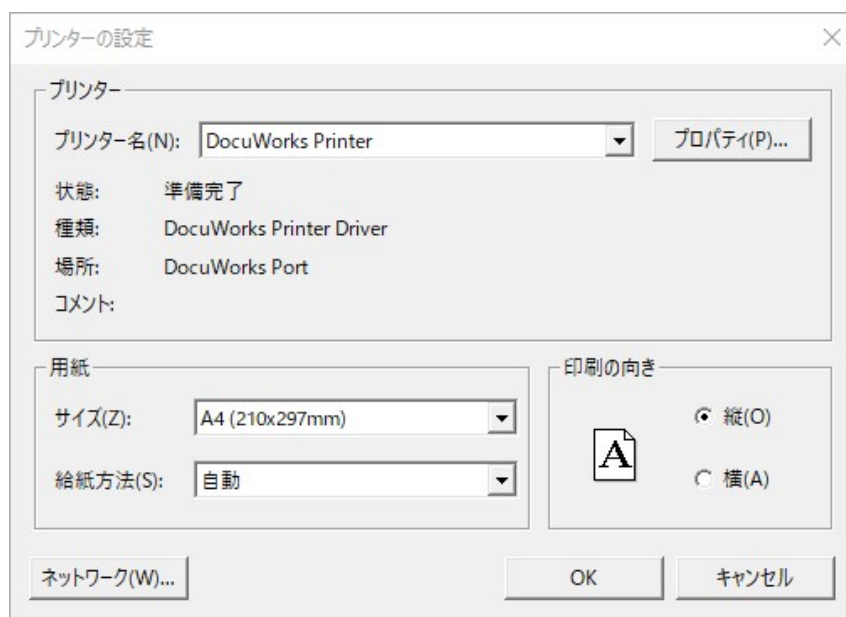
8. 検索文字列入力ダイアログ

主画面で Search ボタンを押下すると、検索文字列入力ダイアログが開きます。検索したい文字列を入力して Finish ボタンを押下すると、順方向に検索を実施します。



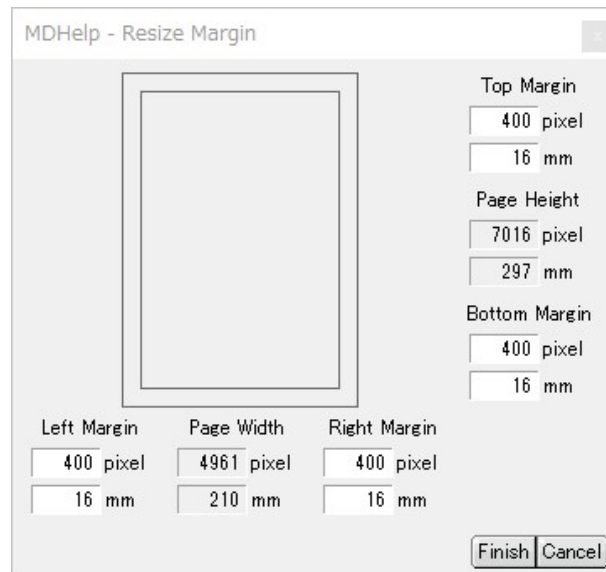
9. プリンターの設定ダイアログ

ページ表示時の Resize ボタンを押下すると、Windows標準のプリンターの設定ダイアログが開きます。印刷時に想定するプリンター（例えばMicrosoft Print to PDFなど）を選択し、用紙のサイズと向きを選択して OK ボタンを押下すると、ページ表示時に使用する用紙サイズが変更されます。設定した用紙サイズは、設定ファイルに記録されます。



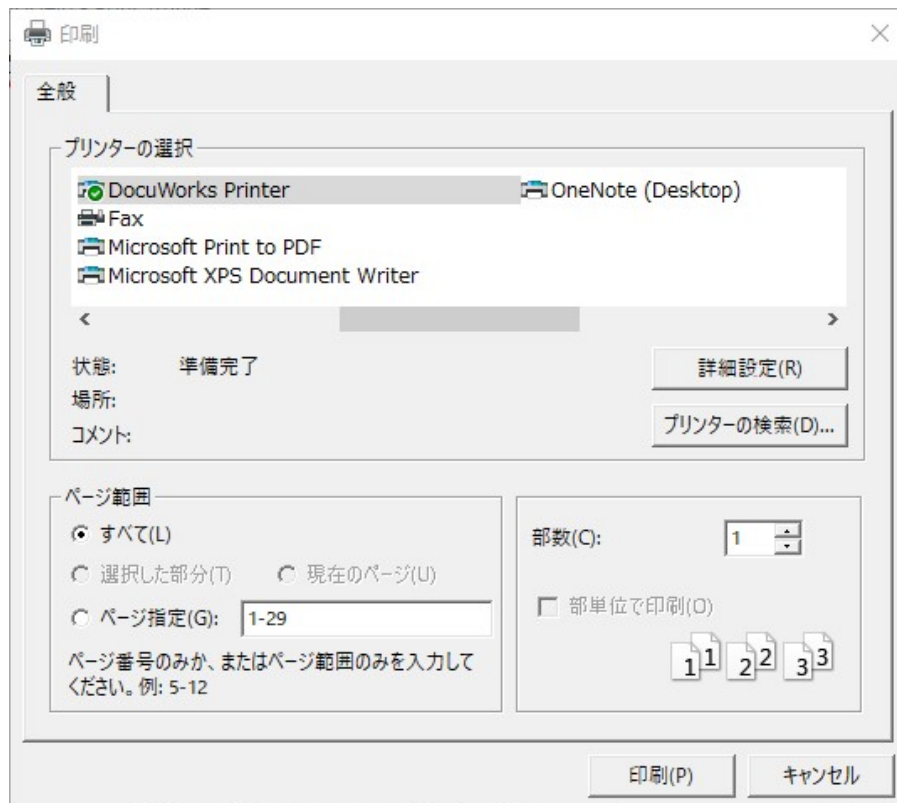
10. マージン設定ダイアログ

ページ表示時の Margin ボタンを押下すると、マージン設定ダイアログが開きます。各辺のマージンを pixel単位か mm単位のどちらかで入力して Finish ボタンを押下すると、ページ表示時に使用する各辺のマージンを変更します。設定したマージンは、設定ファイルに記録されます。



11. 印刷ダイアログ

ページ表示時の Print ボタンを押下すると、Windows標準の印刷ダイアログが開きます。



- ページ表示時の Resize で選択した用紙サイズと、印刷ダイアログで選択した用紙サイズが異なっている場合、印刷開始前にページ表示時の用紙サイズが自動的に切り変わります。

第3章 設定ファイル

MDHelpは、起動時に MDHelp.exe と同じフォルダにある MDHelp.ini を設定ファイルとして読み込みます。

第1節 設定ファイルの構成の設定 [Common]

[Common]セクションでは、各種設定の読み込み先の変更や、MDHelpの表示言語を設定します。

[Common]	
Program=MDHelp	... MDHelpの設定ファイルである事を指定します。
GuiProfile=xxxx	... 表示に関するパラメータやウィンドウの位置情報などを保存するファイルを、別のファイルから読み込みます。
ConfigFile=xxxx	... 動作設定情報を記述するファイルを、別のファイルから読み込みます。
LanguageFile=xxxx	... GUIの表示言語設定ファイルを指定します。未指定の場合は LanguageFile.ini が使用されます。
Language=xxxx	... LanguageFile内の使用するセクション名を指定します。ユーザー選択設定がある場合はそちらを優先します。

1. GUI関連の設定を別ファイルから読み書きする設定

[Common]セクションの GuiProfile の項目で別の設定ファイルを指定すると、GUI関連の設定を指定したファイルから読み書きします。MDHelp は前回表示位置などをここで指定した設定ファイルに保存します。

```
[Common]
GuiProfile=GuiProfile.ini
```

[Common] セクションで相対パスを指定した場合は、プログラムの置かれたフォルダからの相対パスに置き換えます。下記の例では、プログラムの置かれたフォルダの1つ上のフォルダ中の Profile フォルダにある GuiProfile.ini を使用します。

```
[Common]
GuiProfile=..¥Profile¥GuiProfile.ini
```

[Common] セクションで \$(User) と記述した部分は、Windowsログインユーザの AppData¥Roaming¥プログラム名 の場所に置き換えます。下記の例では、Windows11 でログインユーザが Kobayashi の場合は、C:¥Users¥Kobayashi¥AppData¥Roaming¥MDHelp¥GuiProfile.ini と解釈します。

```
[Common]
GuiProfile=$(User)¥GuiProfile.ini
```

2. 動作設定情報を別ファイルから読み込む設定

[Common]セクションの ConfigFile の項目で別の設定ファイルを指定すると、動作設定情報を指定したファイルから読み込みます。ConfigFile の項目を指定した場合、MDHelp.exe と同じフォルダにある MDHelp.ini から動作設定情報を読み込まなくなります。

```
[Common]
ConfigFile=ConfigFile.ini
```

この設定とは別に、表示するMarkdownファイルごとに別の動作設定情報を読み込む手段があります。Markdownファイルと同じフォルダに MDHelp.ini を置いておくと、その MDHelp.ini から Markdownに関する設定を追加読み込みします。追加読み込みする設定項目は、[Common] [Job] 以外の動作設定情報のセクションです。追加読み込みする MDHelp.ini に [TextFont] [PrintFont] など MDHelp のUI操作から自動保存する項目が記述されていた場合は、追加読み込みした MDHelp.ini の方を書き替えます。

3. 表示言語の設定

[Common]セクションの LanguageFile の項目で言語ファイルを指定すると、GUIの表示言語を変更する事ができます。言語ファイルの内容は下記の形式になっています。

```
[Default]
CommonDialog_CancelButton=Cancel
CommonDialog_FinishButton=Finish
CommonDialog_HiddenButton=Hidden
CommonDialog_InputTextPrompt=Input text ?
```

日本語を表示したい場合は、[Default]セクションをそのままコピーして、セクション名をJapanese等に変更し、各項目の右辺を日本語に変更します。

```
[Japanese]
CommonDialog_CancelButton=中止
CommonDialog_FinishButton=完了
CommonDialog_HiddenButton=隠す
CommonDialog_InputTextPrompt=文字列を入力してください？
```

言語ファイルを編集したら、[Common]セクションの Language の項目に、追加したセクション名の Japanese を指定します。

```
[Common]
LanguageFile=LanguageFile.ini
Language=Japanese
```

第2節 設定ファイル内の各項目の記述に関する共通ルール

設定ファイル内に記述する各項目の値（右辺の文字列）に関する共通のルールについて説明します。

1. 数値の指定

数値は32ビットの整数で指定します。数値の先頭に 0x を付加すると16進数として読み込みます。下記の例では TabStop の値が 8 で、OverMargin の値が 6 になります。

```
[Overview]
TabStop=8
OverMargin=0x06
```

2. フォント高割合

フォント高割合とは、基準フォント(TextFont/PrintFont)の高さに対する、対象の高さや幅の割合を%で表したものです。下記の例では、水平線の高さが基準フォントの高さの 6% の値になる事を示しています。

```
[HorizontalLine]
LineHeight=6
```

3. 色の指定

色の指定は、R/G/B 各成分を8ビットずつ上位から配置した 24 ビットの数値で記述します。16進数で記述するとわかりやすいです。

```
[HorizontalLine]
LineColor=0x808080
```

4. 真偽値の指定

真偽値は、True か False で指定します。

```
[Job]
WithTreeDotMark=False
```

第3節 動作設定情報

動作設定情報には、MDHelp の動作を設定する [Job] セクションと、その他の Markdown の属性設定をするセクションがあります。

1. MDHelpの動作設定 [Job]

[Job] セクションでは、MDHelp の動作を設定します。

[Job]	
AutoLoad=ReadMe_*.txt	... コマンドライン引数で対象ファイルを指定せずにMDHelpを起動した場合に、自動読み込みするファイルを指定します。
WithTreeDotMark=False	... ヘッドライン表示部の各ヘッドラインの先頭に、ドットマークを付加するかどうかを指定します。(未指定時は False)
PageView=False	... 起動時にページ表示モードにする場合は True を指定します。(未指定時は False)
LinkWith=txt,md	... Markdown中のリンク先パスが指定した拡張子だった場合は MDHelp で表示します。(デフォルトは txt,md)

- AutoLoadの項目ではファイル名にワイルドカード (* や ?) が使用できます。複数のファイルに合致した場合は、最初に合致したファイルのみを読み込みます。

2. Markdown 全体の属性設定 [Overview]

[Overview]セクションでは、Markdownを解釈する際の全体に関わる属性を設定します。

[Overview]	
TabStop=8	... タブ幅を指定します。(未指定時は 8)
OverMargin=6	... 行の上のマージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 6%)
UnderMargin=6	... 行の下のマージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 6%)
WrapOverMargin=6	... 折り返した継続行の上マージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 6%)
OverParagraphMargin=36	... 段落の上の追加マージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 36%)
UnderParagraphMargin=36	... 段落の下の追加マージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 36%)
BackgroundColor=0xFFFFFFFF	... 背景色を指定します。(未指定時は白)
TextColor=0x000000	... 文字色を指定します。(未指定時は黒)
PageHeadHeight=20	... ページ表示時のページ区切り線の半分の高さをフォント高割合で指定します。(未指定時は 20%)
PageHeadColor=0xFF0000	... ページ表示時のページ区切り線の色を指定します。(未指定時は赤)
UnderscoreEmphasis=False	... 文字の強調や太字の指定として「_」を使用する場合は True を指定します。(未指定時は False)

EnhanceForm=@%s	... 本プログラムのMarkdown拡張行のフォームを指定します。 %sがパラメータ部分になります。(デフォルトは @%s)
-----------------	--

- ページ表示時のページ区切り線は、ページの先頭と末尾に指定した高さで表示されるため、指定の倍の高さになります。
- 表示される行間は、行の上のマージンと行の下のマージンを加えた値になります。
- 表示される段落間は、行の上のマージンと行の下のマージンと段落の上の追加マージンと段落の下の追加マージンを加えた値になります。
- UnderscoreEmphasisは、英語ワード中のアンダースコアが強調指定等と判定されるのを防止するため、デフォルト False になっています。
- EnhanceFormでは、<!-- %s --> と記載すればHTMLコメントで記載ができます。他のコメントとの区別のために <!-- @%s --> の方が良いでしょう。

3. 見出し行の属性設定 [Headline_1]

見出し行の属性を設定します。見出し行にはレベル1からレベル6まであり、それぞれ、Headline_1 ~ Headline_6 という名前のセクションで属性を設定します。

[Headline_1]	
OverSpace=24	... 見出し行の上の間隔をフォント高割合で指定します。(未指定時は 24%)
UnderSpace=0	... 見出し行の下の間隔をフォント高割合で指定します。(未指定時は 0%)
Overline=0	... 見出し行の上に表示する区切り線の高さをフォント高割合で指定します。(未指定時は 0%)
Underline=0	... 見出し行の下に表示する強調線の高さをフォント高割合で指定します。(未指定時は 0%)
OverlineMargin=18	... 見出し行の上に表示する区切り線とフォントの間隔をフォント高割合で指定します。(未指定時は 18%)
UnderlineMargin=30	... 見出し行の下に表示する強調線とフォントの間隔をフォント高割合で指定します。(未指定時は 30%)
OverlineColor=0x808080	... 見出し行の上に表示する区切り線の色を指定します。(未指定時は灰色)
UnderlineColor=0x808080	... 見出し行の下に表示する強調線の色を指定します。(未指定時は灰色)
FontRatio=0	... 基準フォントに対するヘッダラインのフォントサイズを割合で指定します。(未指定時は 0% でツール設定に従います)

- Overline に 0 を指定すると線が非表示になります。Underline も同様です。
- 見出し行では Overview のマージン設定は適用されません。

4. 水平線の属性設定 [HorizontalLine]

水平線の属性を設定します。

[HorizontalLine]

OverMargin=6	... 水平線の行の上のマージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 6%)
UnderMargin=6	... 水平線の行の下のマージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 6%)
LineHeight=6	... 水平線の高さをフォント高割合で指定します。(未指定時は 6%)
LineColor=0x808080	... 水平線の色を指定します。(未指定時は灰色)

- 水平線には Overview のマージン設定は適用されません。

5. 参照行の属性設定 [Blockquote]

参照行の属性を設定します。

[Blockquote]	
BarWidth=26	... 参照記述部分の左端に置くバーの幅をフォント高割合で指定します。(未指定時は 26%)
SideMargin=80	... 参照記述部分の一段分の左端マージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 80%)
BarColor=0xD0D0D0	... 参照記述部分の文字色を指定します。(未指定時は薄い灰色)
TextColor=0x606060	... 参照記述部分の文字色を指定します。(未指定時は灰色)

- SideMarginは、BarWidthより大きくする必要があります。

6. 箇条書きの属性設定 [Itemization]

箇条書きや数字付の箇条書きの属性を設定します。

[Itemization]	
Indent_1=140	... 箇条書きの行頭からのインデント量をフォント高割合で指定します。(未指定時は 140%)
Indent_2=240	... 箇条書きの2段目の行頭からのインデント量をフォント高割合で指定します。(未指定時は 240%)
Indent_3=340	... 箇条書きの3段目の行頭からのインデント量をフォント高割合で指定します。(未指定時は 340%)
Indent_4=440	... 箇条書きの4段目の行頭からのインデント量をフォント高割合で指定します。(未指定時は 440%)
Indent_5=540	... 箇条書きの5段目の行頭からのインデント量をフォント高割合で指定します。(未指定時は 540%)
Indent_6=640	... 箇条書きの6段目の行頭からのインデント量をフォント高割合で指定します。(未指定時は 640%)

- 箇条書きのインデントは 6 段目まで指定できます。

7. コード引用の属性設定 [CodeBlock]

コード引用部分の属性を設定します。

[CodeBlock]

InnerTbMargin=20	... コード引用枠の内側の上下マージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 20%)
InnerLMargin=40	... コード引用枠の内側の左マージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 40%)
InnerRMargin=20	... コード引用枠の内側の右マージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 20%)
LeftMargin=120	... コード引用枠の左側のマージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 120%)
RightMargin=32	... コード引用枠の右側のマージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 32%)
FrameColor=0xC0C0C0	... コード引用枠の枠線の色を指定します。(未指定時は灰色)
InnerColor=0xF0F0F0	... コード引用枠内側の背景色を指定します。(未指定時は薄い灰色)
WrapLines=True	... コード引用枠内で行を折り返すかどうかをTrue/Falseで指定します。(未指定時はTrue)
TabWrap="... "	... TabWrap機能の指示文字列を指定します。(未指定時は"... ")

- コード引用枠の上下の外側マージンは、段落の OverParagraphMargin と UnderParagraphMargin が使用されます。
- TabWrapの指定では、カンマ区切りで複数の指示文字列が指定可能です。それぞれ二重引用符で括れます。
- TabWrap機能は MDHelpの拡張機能で、1つのコード引用枠内で説明文を桁揃えするために使用します。コード引用枠内の先頭行の指示文字列の位置に対して、2行目以降の指示文字列の桁位置を揃えます。また、指示文字列の後の文が右端で折り返した場合、折り返した開始位置を指示文字列の次の位置に揃えます。

8. 画像の属性設定 [Image]

画像引用の属性を設定します。

[Image]

OverMargin=62	... 画像の上側のマージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 62%)
UnderMargin=62	... 画像の下側のマージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 62%)
InterMargin=62	... 画像間のマージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 62%)
MaxWidthRate=80	... 画面の横幅に対する画像の最大幅の割合を%で指定します。(未指定時は 80%)
ExpandOnPrint=750	... ページ表示時の画像拡大割合を%で指定します。(未指定時は 0 でフォント比になります)

- 画像には Overview のマージン設定は適用されません。
- 画像は、通常表示時を基準にしてページ表示時は指定割合で拡大されます。ExpandOnPrintを100に設定すると拡大しません。

9. 表の属性設定 [Table]

表の属性を設定します。

[Table]	
OuterMargin=62	... 表の外側のマージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 62%)
LeftMargin=32	... 項目の左側マージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 32%)
RightMargin=32	... 項目の右側マージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 32%)
TopMargin=16	... 項目の上側マージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 16%)
BottomMargin=16	... 項目の下側マージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 16%)
FrameWidth=6	... 表の枠線の幅をフォント高割合で指定します。(未指定時は 6%)
FrameColor=0x808080	... 表の枠線の色を指定します。(未指定時は灰色)
TitleColor=0xF0F0F0	... タイトル行の背景色を指定します。(未指定時は薄い灰色)
InnerColor=0xFFFFFFFF	... 表の背景色を指定します。(未指定時は白)

- 表には Overview のマージン設定は適用されません。

10. 目次の属性設定 [TOC]

目次(TOC)の属性を設定します。目次に関しては後述の拡張機能を参照してください。

[TOC]	
Indent_1=0	... 目次の1段目の行頭からのインデント量をフォント高割合で指定します。(未指定時は 0%)
Indent_2=100	... 目次の2段目の行頭からのインデント量をフォント高割合で指定します。(未指定時は 100%)
Indent_3=200	... 目次の3段目の行頭からのインデント量をフォント高割合で指定します。(未指定時は 200%)
Indent_4=300	... 目次の4段目の行頭からのインデント量をフォント高割合で指定します。(未指定時は 300%)
Indent_5=400	... 目次の5段目の行頭からのインデント量をフォント高割合で指定します。(未指定時は 400%)
Indent_6=500	... 目次の6段目の行頭からのインデント量をフォント高割合で指定します。(未指定時は 500%)
LineHeight=3	... 目次文字列とページ番号を結ぶ線の高さをフォント高割合で指定します。(未指定時は 3%)
LineColor=0xE0E0E0	... 目次文字列とページ番号を結ぶ線の色を指定します。(未指定時は極薄い灰色)
LinePageArea=600	... 目次文字列とページ番号を結ぶ線とページ番号を合わせた領域の最小幅をフォント高割合で指定します。(未指定時は 600%)

- 目次の段は 6 段階目まで指定できます。
- 目次は ClipTOC ボタンで自動生成できます。クリップボードに生成されるので、それを元の Markdown ファイルの目次位置に貼り付けてください。表紙や目次に対する目次行も自動生成されるので、不要な場合は手動で削除してください。

11. ページ表示時の属性設定 [PrintImage]

ページ表示時の属性を設定します。各属性は Resize ボタンや Margin ボタンで設定できます。

[PrintImage]	
ImageSize_W=4961	... 印刷イメージのピクセルでの幅を指定します。
ImageSize_H=7016	... 印刷イメージのピクセルでの高さを指定します。
MilliSize_W=210	... 印刷イメージのミリメートル単位の幅を指定します。
MilliSize_H=297	... 印刷イメージのミリメートル単位の高さを指定します。
Margin_L=400	... 印刷イメージのピクセルでの左マージンを指定します。
Margin_T=400	... 印刷イメージのピクセルでの上マージンを指定します。
Margin_R=400	... 印刷イメージのピクセルでの右マージンを指定します。
Margin_B=400	... 印刷イメージのピクセルでの下マージンを指定します。

- Resize ボタンを押下すると印刷設定ダイアログが表示されるので、用紙サイズを選択すれば上記属性が自動保存されます。
- Margin ボタンを押下するとマージン設定ダイアログが表示されるので、各マージンを指定すれば上記マージン属性が自動保存されます。

12. 印刷時ヘッダーの属性設定 [PrintHeader]

印刷時の文書ヘッダーの属性を設定します。拡張機能の印刷用ヘッダーの指定を参照してください。

[PrintHeader]	
InterMargin=16	... 文字列と線との間のマージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 20%)
LineHeight=10	... ヘッダーの下に書き込む線の高さをフォント高割合で指定します。(未指定時は 6%)
LineColor=0x404040	... ヘッダーの下に書き込む線の色を指定します。(未指定時は濃い灰色)
TextColor=0x404040	... 文字列の色を指定します。(未指定時は濃い灰色)
FontRatio=100	... 基準フォントに対するヘッダーのフォントのサイズを割合で指定します。(未指定時は 100%)

- LineHeight で 0 を指定すると区切り線を印刷しません。

13. 印刷時フッターの属性設定 [PrintFooter]

印刷時の文書フッターの属性を設定します。拡張機能の印刷用フッターの指定を参照してください。

[PrintFooter]

InterMargin=16	... 文字列と線との間のマージンをフォント高割合で指定します。(未指定時は 20%)
LineHeight=10	... フッターの上に書き込む線の高さをフォント高割合で指定します。(未指定時は 6%)
LineColor=0x404040	... フッターの上に書き込む線の色を指定します。(未指定時は濃い灰色)
TextColor=0x404040	... 文字列の色を指定します。(未指定時は濃い灰色)
FontRatio=100	... 基準フォントに対するフッターのフォントのサイズを割合で指定します。(未指定時は 100%)

- LineHeightで 0 を指定すると区切り線を印刷しません。

14. 表示フォントの属性設定 [TextFont]

通常表示時の文字表示に使用するフォントの属性を設定します。通常表示時の Font ボタンで指定した後、Save ボタンから保存できます。

```
[TextFont]
Height=-13
Width=0
Escapement=0
Orientation=0
Weight=400
Italic=0
Underline=0
StrikeOut=0
Charset=0
OutPrecision=3
ClipPrecision=2
Quality=1
PitchFamily=50
FaceName=Meiryo UI
```

... フォント名称です。

15. 印刷フォントの属性設定 [PrintFont]

ページ表示時に使用する文字フォントの属性を設定します。ページ表示時の Font ボタンで指定した後、Save ボタンから保存できます。

```
[PrintFont]
Height=-91
Width=0
Escapement=0
Orientation=0
Weight=0
Italic=0
Underline=0
```

```
StrikeOut=0
Charset=0
OutPrecision=3
ClipPrecision=2
Quality=1
PitchFamily=50
FaceName=游ゴシック
```

... フォント名称です。

16. ヘルプ表示の属性設定 [Manual]

タイトルメニューの「View help.」または「Version: バージョン番号」項目を選択した際のマニュアル表示方法を指定します。

```
[Manual]
Manual=xxxx,yyyy      ... マニュアルファイルを指定します。カンマ区切りで複数のファイル
                        を指定可能です。ファイル名部分には * と ? が使用できます。
MDHelp=txt,md          ... MDHelpを使って表示する拡張子を指定します。デフォルトは txt
                        と md です。その他の拡張子は Windows 設定に従います。
```

- 「Version: バージョン番号」項目を選択した場合は、ReadMe_<本プログラム名>.txt を表示します。
- 「Version: バージョン番号」項目を選択した場合で、[Common]のLanguage項目を設定している場合は、ReadMe_<本プログラム名>_<言語名>.txt を先に検索します。
- 「View help.」項目では、複数のマニュアルが合致する場合に、サブメニュー形式でリストアップします。
- マニュアルファイルの指定では、プログラムフォルダからの相対指定も可能です。
- MDHelp.exeは、本プログラムのフォルダ、または MDHelpサブフォルダの下、または本プログラムフォルダと同じ並びのMDHelpフォルダの下、から検索します。

第4節 GUI関連の設定

GUI関連の設定には、手動設定する [WindowParameter] [WindowFont] と、自動保存される [SelectLanguage] [ReportDialog] のセクションがあります。

1. ユーザー選択設定

ユーザーが選択した内容を保存します。

[UserSelection]

Language=xxxx ... タイトルメニューの Select language 項目で選択した設定を保存します。xxxx が空の場合は自動選択となります。

- LanguageFile が存在しない場合は、タイトルメニューの Select language 項目は選択不可となります。

2. ダイアログ表示パラメータの属性設定 [WindowParameter]

ダイアログ表示に関する一般的な属性を設定します。

[WindowParameter]

Margin=4 ... ダイアログのアイテム間のマージンを指定します。

3. ダイアログフォントの属性設定 [WindowFont]

ダイアログの表示に使用するフォントの属性を設定します。タイトルメニューの「Select window font.」で変更できます(再実行で反映)。

[WindowFont]

Height=-13

Width=0

Escapement=0

Orientation=0

Weight=400

Italic=0

Underline=0

StrikeOut=0

Charset=0

OutPrecision=3

ClipPrecision=2

Quality=1

PitchFamily=50

FaceName=Meiryo UI ... フォント名称です。

4. ユーザー選択設定 [SelectLanguage]

ユーザーが選択した内容を保存します。

```
[UserSelection]
```

```
Language=xxxx
```

... タイトルメニューの Select language 項目で選択した設定を保存します。xxxx が空の場合は自動選択となります。

5. ダイアログ表示位置の属性設定 [ReportDialog]

MDHelp が終了時のダイアログ表示位置を自動保存するセクションです。

```
[MainDialog]
```

```
WindowRect_L=152
```

```
WindowRect_T=221
```

```
WindowRect_R=1295
```

```
WindowRect_B=1127
```

```
DividerPoint_X=225
```

```
DividerPoint_Y=47
```

第4章 Markdown拡張機能

本章では、MDHelpのMarkdown拡張機能について説明します。拡張機能を指定する行の記述フォーマットは、[Overview]セクションの EnhanceForm の設定で変更できます。

1. 改ページ @PageBreak

MarkDownに次の 1 行の記述を行うと改ページになります。

```
@PageBreak
```

(記述例)

この行は前のページです。

```
@PageBreak
```

この行は次のページになります。

- HTML形式で「<div class="pagebreak"></div>」と 1 行記述しても改ページになります。

2. 右寄せ/中央寄せ/左寄せ @Align

MarkDownに下記の下記の記述を行うと、それ以降の行の文字寄せを変更できます。

@Align:Right	... この行以降を右寄せに設定します。
@Align:Center	... この行以降を中央寄せに設定します。
@Align:Left	... この行以降を左寄せに設定します。
@Align:	... 右寄せ/中央寄せ/左寄せを解除し、この行以降を通常に戻します。

(記述例)

この行は通常の左寄せです。

```
@Align:Right
```

この行が右寄せになります。

```
@Align:
```

この行は通常の左寄せです。

- 右寄せ/中央寄せ/左寄せは、本文の通常行に対してのみ効果があります。
- 右寄せ/中央寄せの範囲内でも、行が折り返した場合は左寄せになります。
- 右寄せ/中央寄せを指定しない場合は左寄せになるため、「@Align:Left」は通常使用しません。

3. フォントサイズの変更 @FontRatio

MarkDownに下記の記述を行うと、部分的にフォントサイズを変更できます。

@FontRatio:xxxx	... xxxx にフォントサイズの拡大率を指定します。この行以降を指定したフォントサイズに設定します。
@FontRatio:	... フォントサイズを元の大きさに戻します。

(記述例)

この行は通常のフォントサイズです。

@FontRatio:200

この行が200%のフォントサイズになります。

@FontRatio:

この行は通常のフォントサイズです。

- フォントサイズの変更は、本文の通常行に対してのみ効果があります。
- フォントサイズの変更を多用すると、実行が遅くなります。

4. 目次 @TOC

MarkDownに下記の記述を行うと、目次の1行分を表示します。

@TOC:段数:ページ番号:目次の文字列

(記述例)

@TOC:0:1:第1章 はじめに

@TOC:1:1:"第1節 ツールの概要"

- 目次の文字列を二重引用符で囲んだ場合は、二重引用符を除いた部分が表示されます。
- 目次は ClipTOC ボタンでクリップボードに自動生成できます。それを元のMarkDownファイルの目次位置に貼り付けてください。表紙や目次に対する目次行も自動生成されるので、不要な場合は手動で削除してください。

5. 印刷用ヘッダー @PageHeader

MarkDownに下記の記述を行うと、印刷用のヘッダーを印刷できます。

@PageHeader:yyyy:xxxx

... yyyyには寄せ位置(Left, Center, Rightのいずれか)を指定します。xxxx は印刷する文字列です。

(記述例)

@PageHeader:Left:マニュアル

@PageHeader:Right:K1.0版

- 印刷用ヘッダーの指示行が記述されたページ以降のすべてのページに印刷されます。特定ページ以降のヘッダー印刷を取り消す場合は空文字列を指定してください。
- LeftとRightなど組み合わせての指定が可能です。上記の記述例では、左寄せの「マニュアル」と右寄せの「K1.0版」の両方が印刷されます。
- 印刷する文字列部分に変数を使用できます。%p がページ番号、%t が総ページ数、に置換されます。

6. 印刷用フッター @PageFooter

MarkDownに下記の記述を行うと、印刷用のフッターを印刷できます。

@PageFooter:yyyy:xxxx ... yyyyには寄せ位置(Left, Center, Rightのいずれか)を指定します。xxxx は印刷する文字列です。

(記述例)

@PageFooter:Center:\$p / \$t

- 印刷用フッターの指示行が記述されたページ以降のすべてのページに印刷されます。特定ページ以降のフッター印刷を取り消す場合は空文字列を指定してください。
- LeftとRightなど組み合わせての指定が可能です。
- 印刷する文字列部分に変数が使用できます。%p がページ番号、%t が総ページ数、に置換されます。上記の記述例では、全12ページの場合、1 ページ目の中央に「1 / 12」と印刷されます。

7. 開始ページの指定 @PageNumber

Markdownに下記の記述を行うと、印刷用ヘッダー/印刷用フッターで使用するページ番号と総ページ数を変更できます。

@PageNumber:xxxx ... xxxxにページ番号を指定します。この指定が記述されたページがそのページ番号になります。

(記述例)

@PageNumber:1

- 上記の記述例では、記述されたページが1 ページ目になり、最後のページ番号によって総ページ数が決定します。

8. 箇条書きの先頭マーク指定

箇条書きのチェックボックス記法で、角括弧内に記述した文字を箇条書きの先頭マークとして使用できます。

(記述例)

- 普通の箇条書きです。
- [x] チェックボックスのONになります。
- [] チェックボックスのOFFになります。
- [※] 米印が箇条書きの先頭のマークになります。

やり残し

- 数字の箇条書きのフォーム指定
- 章とか節とかの数字の自動付加
- ヘッドラインの次の位置がページ境界になる場合に次のページに移動
- フォントの色指定 テキスト
- 右寄せ/中央寄せを、Source部分や図にも適用